

オルソコルテックスの傾斜配列とは、IFが単に斜めになっているわけではありません。オルソの傾斜配列を正確に理解しましょう！



■オルソコルテックスは繊維軸に対して単に傾斜しているわけではない。そんな簡単なものではない。正確に言うと、IFが何千本、何万本と束ねられたものがマクロフィブリルという1つの単位に凝集している。凝集の仕方が傾斜配列。単に傾斜配列ではなく、真ん中は傾斜してない外側に行くほど傾斜している。それはどういうことなのか？

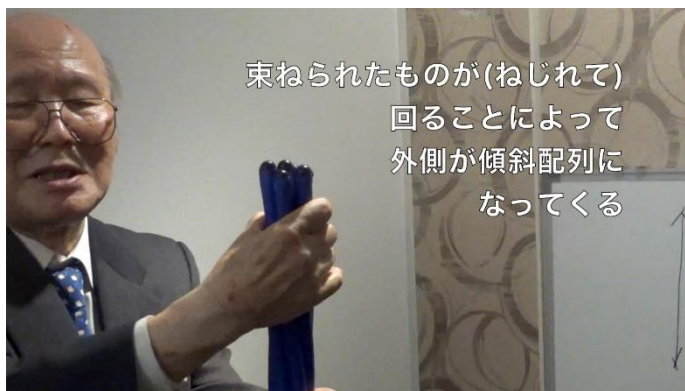
※凝集：細胞などが多数集って集塊となること。



■IFを何万本か集めたとして、それを全体にツイストしたとしても、真ん中は動かない(=中心部分はツイストされない)。



■真ん中は動かないが、周り(周辺部分)は力が働いて回る。回るということは外側は傾斜するという。傾斜配列というのはそういう意味であって、IFの束が単に斜めになっている(傾斜している)わけではない。そこは間違えないでくださいね。



■束ねられたもの(IF)が回ることによって、ねじれて外側が傾斜配列になってくる。ただし、真ん中は回らない。

